

学力向上フロンティアスクール用中間報告書

都道府県名	京 都 府
-------	-------

学校の概要（平成16年2月現在）

学校名	城陽市立北城陽中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	5	4	1	14	28
生徒数	129	174	138	5	446	

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力を付けるための指導方法や指導体制の工夫改善」

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

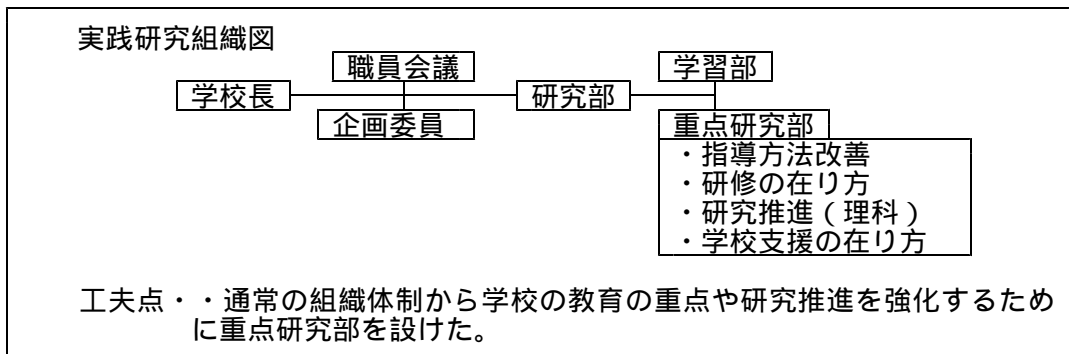
実施学年： 全学年 教科： 理科 選択理由： 理科離れと言われる昨今、生徒に理科についての興味・関心を高めながら直接観察や実験に参加する機会を増やし、さらに少人数授業を通して確かな学力を付けさせたい。また、生徒に理科を日常生活と結びついた身近な教科として捉えさせたい。
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	テーマ 「理科についての興味・関心を高め、確かな学力を付けるための指導方法の工夫」 研究の見通し（仮説） 生徒の学習状況を確かめつつ、理科についての興味・関心を高め、個に応じた指導方法や指導体制の工夫改善を行えば、確かな学力の充実と向上が図れるのではないかと。 生徒の学習状況を把握し、指導形態の工夫と興味・関心を高める取組や教材の開発を行う。また、生徒の変容に関する基礎的なデータの蓄積を行う。
	研究の内容・方法 1 学期 学習状況の把握 地域に開かれた理科に関する公開講座の実施 学習状況の把握（NRT） ワクワク理科大好きおもしろ実験・観察講座の開催 2 学期 指導形態の工夫 興味・関心を高める教材の開発 地域の地質についての授業（1年生「活着している地球」） 習熟度別少人数授業の実施 興味・関心を高める教材（ワークシートの改善、学習カード） 1～3年生の夏休み課題研究の展示・発表 3 学期 地域の科学館や専門家との連携による授業 地域のプラネタリウム館長による授業（3年生「地球と宇宙」） 京都大学名誉教授による授業（2年生「化学変化と原子・分子」） ワクワク理科大好きおもしろ実験・観察講座の開催
	通 年 生徒の課題研究に対する支援の研究 少人数授業の指導方法、指導体制、実験・観察方法の研究

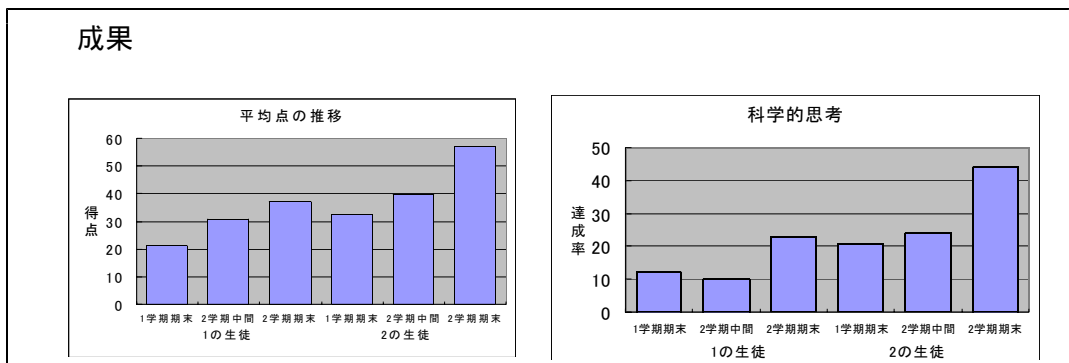
平成 16 年 度	<p>テーマ 「理科についての興味・関心を高め、確かな学力を付けるための指導方法の工夫」</p> <p>研究の見通し（仮説） 生徒の学習状況を確認しつつ、理科についての興味・関心を高め、個に応じた指導方法や指導体制の工夫改善を行えば、確かな学力の充実・向上が図れるのではないかと。</p> <p>生徒の変容に関する基礎的なデータを基に、更に生徒の学習状況を細かく把握し、指導形態・指導方法の改善、評価規準や評価方法の研究、興味・関心を高める取組や教材の開発等を計画的・系統的に実施する。また、2学期には研究発表会を開催し、研究内容の協議を行い成果のまとめによる他教科への波及を図る。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 少人数授業や習熟の程度に応じた指導方法の研究開発 少人数授業、習熟の程度に応じた授業などの授業形態や指導体制の改善を通して効果的な指導体制を検証する。 諸検査等のデータを基に課題を分析し、理科への興味・関心を高め、効果的な補充学習を進める。</p> <p>(2) 教材・教具の開発 興味・関心を高める教材を開発し、学習意欲を喚起する。 生徒に実態に即した実験器具やワークシートの開発を図る。 単元ごとに自己評価や授業アンケートを実施し、学習への意欲・関心の程度を検証する。</p> <p>(3) 評価規準や評価方法等についての研究 より具体的な評価規準と評価方法について研究する。 単元ごとに自己評価を加え、指導内容の精選を図りながら評価規準の具体化を進め、評価方法の見直しを図る。 評価規準の具体化を進め、単元ごとにその客観性を検証し、本校独自のものを完成させていく。</p> <p>(4) その他 外部講師（地域の学識経験者）の活用 学習ボランティアの活用</p>
--------------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果



- (ア) 少人数で授業をすることで、生徒の現状に即した個に応じたきめ細かな指導をすることができた。
- (イ) 実験などにおいては一人一人が主体的にのぞみ、実験に参加することにより興味や関心を引き出すことができた。
- (ウ) 少人数授業の実施、学習カードやワークシートなどの作成と実施により点検作業等を一人一人の生徒に対してきめ細かく行えたので、個々の生徒のつまずき等に対して支援が行いやすかった。

2. 今後の課題

課題

- (ア) 理科室の数、実験器具の個数などの関係で少人数授業に対応できるよう、常に進度の調整が必要であり、各講座を同一歩調で進めることができないので効率的な調整方法を工夫する。
- (イ) 基礎充実講座については、学習意欲を高める工夫などを行い、生徒の基礎的な学力の定着を一層図る必要がある。
- (ウ) 本校の実践から学力充実のプログラムを構築する。
- (エ) 客観的に判断できる評価規準の整理を一層進める必要がある。

学力把握のための学校としての取組

学力把握

- (ア) 教研式 NRT 全国標準診断的学力検査 全学年対象 4月実施
 - ・目的 全国標準と比較して本校生徒の状況を知り、指導に生かす。
 - ・内容 1年生 4教科 2・3年生 5教科
- (イ) 理科に関するアンケート調査(本校独自に作成) 全学年 毎学期実施
 - ・目的 研究実践を進める上で生徒の変容を把握する。
 - ・内容 生徒の理科に対する興味・関心の変化を問う質問や授業に対する意見を記入する質問
- (ウ) 研究会等への参加
 - ・京都府学力充実推進協議会
 - ・山城地区学力向上推進協議会・実践交流会
 - ・平成15年度 指導と評価大学近畿公開講座
- (エ) 研究発表会の開催
 - ・研究実践の成果と課題を明らかにし、本校の取組を普及させるために研究発表会を2学期に開催する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究成果の普及

- (ア) HPの作成
 - 地域に向けて本校の取組の紹介を行うことで情報発信としての役目を果たしている。
- (イ) 公開授業の実施
 - 地域に向けて本校の実践を紹介し、事後研究会で内容を深めている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無